



復刊第37号

年頭のご挨拶

会長 三 神 美 和

会員の皆様、明けましておめでと... 昨年は色々とお世話をおかけしました...

昨年は本会のかねての懸案であり... 万博への準備など大変多忙な年でありました...

手が役所でありますので思うようには... 参りませんが昨年から色々と手をつくしておられます...

万博までいよいよあと一年余りとなり... 昨年十月本会議が万博の救急医療に対する役務提供を申込み...

万博協力に對しその資金面もさること乍ら、今年はその役務提供のため...

万博への協力について新年早々よいお知らせを一つ申し上げたいと思いま...

第十二回国際女医学会

参加募集案内

新春を迎えて皆様益々御健勝の事と存じます。さて来年の二月、オーストラリア...

第十四回日本女医学会定期

総会・観光旅行案内

日本女医学会総会を左記の通り開催いたし当日夕刻より懇親会を行います...

の該当者がありませんらご推薦頂きたいと存じます。
本年は大阪で総会をひき受けて下さいました。地元の方々は何かと大変なことと存じますがよろしくお願い致します。

国際連絡書記離任の挨拶

会員の皆様、明けましておめでとございます。
昨年十二月の理事会で昭和三十五年以来およばずながら日本女医会の国際連絡書記をさせて頂いておりました。このたびは離任させて頂いておりましたが、この八年間、本場に皆様の指導、ご協力をいただき心より感謝致しております。かえりみずれば、バーデンバーデン、マニラ、サンディエゴ、ローチヌスター、ウインの国際女医会で日本女医会の代表の一員として、又諸外国女医会員の来日の時のご案内、日本会員が個々に外国へいらつしやる時に諸国女医会へのご紹介、他国女医に関するいろいろの調査をなさっていらつしやる本会員のお手伝いに、又他国女医会員からの医学その他に関するお手伝いなどいろいろとさせて頂いていただきました。本当に行きとどきませんでしたし、皆様のご期待にそえませんでした。私と致しましては一生懸命のため、努力致し

たつもりでございます。

この長い年月の間、蔭になり、日向になりご指導、ご激励、ご協力下さいました先生方、会員の皆様にあつくお礼申し上げます。
後任の国際連絡書記の佐野アヤ子先生は私の大先輩でいらつしやう大変有能な先生でいらつしやいますので日本女医会を益々国際的に発展させていただけるものと存じます。どうか会員の皆様にもいつそご協力いただくとお願い申し上げます。

小野 春生

正月

倉 八千代

母ありし日の祝い日や
朱の梅の
鯉の酒むし味よかりけり
たまさかの静かなる日を
歌集よみ
窪田空穂の老の歌に泣く

日本女医会愛知県支部事業報告

文責・庶務 佐藤

万国博への医療役割参加も愈々正式に決定し三神会長始め本部に於てはその準備、対策に細心ご配慮の事と存じます。日本女医会の力と、社会奉仕への熱意を対外的に示すこの仕事には是非会員の総力を結集して立派に完遂したものとする存じます。

なものとなって参りました。就中個人としては仲々時間的制約のため十分でない社会奉仕への熱意を結集して「婦人と子供の健康相談」を始めて既に満四年、その成果は社会的にも認められて参りました。今後各支部に於ても女医会として社

婦人子供の健康相談の会

毎月 第2月曜 眼科・精神科
第3月曜 内科・小児科
第4月曜 整形外科・耳鼻科
無料

午後2時~4時まで致しております
お気軽にお出掛けください。

場所 愛知県医師会館内 (エントランスの裏)
主催 日本女医会愛知県支部
協賛 愛知県医師会・名古屋市医師会



愛知県支部と致しましても会場の近県でもあり強力にその協力体制を推進致したいと存じますが、会員の一致団結の熱意にささかでも趣嚮を来さなす望むものであります。
愛知県に於ては支部結成以来森川支部長のもとに糸乱れぬ統率を誇り、組織の強化と相俟って社会活動も強固

会活動がますます活潑に行われる事と存じますが、そのご参考迄に愛知県支部の組織と活動状況の概略をご報告致します。
A 組織
・会員数 二百七十名
・全県下を地理的に十六ブロックに分け、各ブロックより理事を選出、連絡網の確立を図る

Table with columns for '役員' (Officers) and '職務分担' (Job Assignments). Lists roles like 支部長, 副支部長, 理事, 委員, 庶務, 調査, etc. with names and counts.

B 活動状況

(1) 「婦人と子供の健康相談」

担当 調査部

昭和四十年一月十一日を第一回の相談日として開催、爾来今日迄継続している事業である。当初の反響は非常に大きく、家庭の主婦達に期待と感謝を以て迎えられ各新聞紙上に大々的に報道された。

『女のお医者さんの集まりである日本女医学会支部(森川みどり支部長)が、この一月から始めた「婦人、子どもの健康を相談する会」はすでに五ヶ月たったが、なかなか好評。女医さんたちも「派手さはないが、地道の活動を続けてゆきたい」と張り切っている。

からだの調子が悪くても、どういう医者にかかっていいかわからない人、子どものしつけに頭を悩ますおあさんの相談を受け、適切な指示を与えてやるとともに、相談にくる人の追跡調査をして、データをつかみたいというのがねらいだった。

これは半分成功といったところらしい。ということは、医者の選び方がわからず迷っている人、現在治療を受けていても、忙しい医者からじゅうぶんな注意が聞けず困っている人、現在の治療法でいいのかしらと疑う人、直ったといわれてもまだ心配している人。こんな人たちは案外多いが、相談にきてさっぱりした顔で帰ってゆく。そして、ほかの人に紹介している。いままで各科四、五回の相談をやったが、八科合わせて三百五十三人の相談者が

あった。これは成功の方である。

一方、追跡調査の方は二回、三回と引き続いて相談にくる人は少ないので、いまのところある人を通して、治療前から治療後までの経過を追って調べるといふ事は、そう簡単にゆかないようだ。

結局いままでの相談を通じて感じたことは、治療に関するごく簡単な注意事項でさえ、知らない人が案外少ないこと。』

【写真は健康相談に応じる女医さんたち市医師館で】



婦人の健康相談の会(無料)

毎月：第一月曜日 眼科、精神科

第二月曜日 内科、整形外科、小児科、耳鼻科

第三月曜日 産婦人科、皮膚科

第四月曜日 産婦人科、皮膚科

時間：午後二時～四時

場所：愛知県医師会館内

主催：日本女医学会愛知支部

昭和四十三年九月迄の相談者数

- 昭和四十年.....六〇六人
 - 昭和四十一年.....二二七人
 - 昭和四十二年.....三六五人
 - 昭和四十三年九月迄.....二九四人
- 昭和四十二年八月施行の健康相談アンケート表
総投函数(八〇六)

調査可能返信.....三三八
返信未着.....三九〇
宛先不明返送分.....七八

○お訊ねー健康相談に行つた事は

答 A:よかつた 二六五

B:よくなかつた 六

C:どちらとも云えぬ 六七

○お訊ねー今後相談したい事が出来たら

答 A:又ゆく 二二三
- B:もう行かない 一一
- C:その時、考える 九二

○お答ねー相談した時の感じ

答 A:親切だった 二六四
- B:不親切だった 四
- C:心配がとれた 一三三
- D:心配はとれぬ 六〇
- E:ゆつくり話せてよい 一三四
- F:話だけでは良くない 九一

○お訊ねーその後の治療について

答 (略)

○お訊ねーその他お気付の点をおもらし下さい

○深く感謝している、続けてほしい 四一

○もっとP・Rしてほしい

アンケート以外に相談者から折にふれ手紙が寄せられる。その一例

お昼にテレビのダイヤルをまわして思いがけなく、先生にお目にかかりびっくり致しました。通院をやめてもう一年以上になります

が、別に良くも悪くもありませんので忙しさにまぎれて失礼致しております。かねて母と子の健康相談日を設けられていますことは承知しております。一家の主婦は主人や子供のことは懸命になつても、自分のことはとくなくおざりにしがちでございまして、自分が倒れては.....ということも考えもいたわるひまもなく、無理の上に無理が重なって軽い病気も重くなる迄、ほっておくという有様は身辺のあちらこちらで見聞することでご座います。女医先生方が無料でしかも親切に健康相談にのつて下さるといふことは、多くの母親達の救いであると思ひます。相談する先生方が女性であるといふことも氣を楽にして、そのうち..... (以下抄略)

相談は適切な指導を主とし診察は行なわない。

県からの補助金により運営。

P・R 担当 広報部

(1)タイトルのポスターを全会員の診療所に掲示

(2)毎月一回 名古屋市広報、市電

広告

毎週一回 中日、朝日、毎日、名古屋タイムスの各新聞社に「女医による婦人・子供の健康相談の会」開催案内を掲載



(2)学術研修会 担当 学術部
一、内科、小児科及び全科
昭和四十年九月十五日を第一回とし毎月第三木曜日、午後二時から四時迄、銀行会議室を会場とし学術講演会を開催
昭和四十二年度からの演題

第1回：梅毒について

名大 大橋 勝先生

第2回：新しい軟膏

名大 小林 助教

第3回：小児発疹症について

名大 鈴木 助教

第4回：耳鼻咽喉のグレンツゲビー

国立名古屋病院 関屋部長

第5回：酵素とどの様にして酵素

作用を現わすか

名市大 村地 教授

第6回：ホルモンの臨床について

名大 千原 講師

第7回：胃の生検と細胞診

国立癌センター 春日井部長

第8回：心電図(総論)

国立名古屋病院 富田保和先生

第9回：小児輸液の実験

名大 矢崎雄彦先生

第10回：心電図(読影)

国立名古屋病院 富田保和先生

第11回：消化管のX線診断

名大 佐々木助教

第12回： " " "

第13回： " " "

第14回：公害とその対策

名市大 青山 助教

第15回：心身症

国立名古屋病院 河合先生

演題はなるべく各科廻りとしアンケ

ートによる会員の希望を基に委員会

で検討の上、理事会の承認を経て決定

講演内容を毎回録音し希望者に貸出

する、更に今後は印刷配布の予定。

二、眼科研修会

医師であり且、家庭の主婦である女医の立場から来る必然的な勉強不足を憂えた支部長が「やればできる」の信念のもとに自宅を会場として第一回の女医の眼科研修会を開かれたのが昭和四十年六月、爾来毎月月末土曜日の午後には開催、レベルアップを目標とした当初の理想は遠い昔に実現して今や女医の存在を確固たるものにした眼科研修会である。

昭和四十三年年度演題

一月例会 専門医制度 森川支部長

二月例会 緑内障の検査の実際と治療について

三月例会 眼精疲労の診断と治療

四月例会 高血圧症の眼底について

五月例会 角膜炎ヘルペスについて

六月例会 弱視の診断と治療

七月例会 眼筋麻痺の診断と治療

八月例会 岡崎病院 小島靖郎先生

九月例会 頭部外傷に於ける眼症状

十月例会 労災病院 神沢幸吉先生

十一月例会 社保請求の問題について

十二月例会 吉村善郎先生

ベリラックスレンズ

保谷ガラス

(3) 社会保険研修会 担当 社保部

・抜本改正問題研究の為

「特に厚生省試案の意図について」の講演会を開催した。

・女医の審査員を囲んで疑問点に就て検討質疑する小グループ研究会を企画

(4) 純潔教育 担当 渉 外部

健康相談につぐ重要な対外的社会事業としてかねてから検討中であ

ったが実施の段階に到る。

渉外部理事を中心に産婦人科医、

学校医を主体とした委員会を結

成。

県教委社会教育課の賛同を得て関

係機関と具体的実施方法を打合せ

中である。

(5) 福祉活動 担当 福 祉 部

1、レクリエーション 毎年一回

四十三年度 明治百年に因み明

治村見学

2、見舞 病気の為一ヶ月以上休

診の会員に三千円の見舞金を贈

る

3、弔意 会員死亡の際生花一基

4、敬老の日の行事

県内在住の八十歳以上の女医に

対する記念品並に表彰状を贈呈

当日は福祉部理事が訪問して廻

り女医の歴史とも云うべき想い

出を語っていただき録音したり

近詠をいただいて会誌に掲載し

そのご健在を祝福して喜ばれて

いる。

以上

ソ連の医療制度とモスクワでの印象

山 崎 倫 子

ソ連の医療制度に就いては多くの期待と関心を持ってモスクワに行ったのだったが、私達短期旅行者には病院見学は許されないと、インツォリストでお膳立したレクチャーを聞くだけに止まりました。以下第二モスクワ医科大学の Prof. Yu. P. Lisitsin (公衆衛生) による説明の概略をお伝えします。

社会主義国ソ連では医療は全て国営である。国営ということは医療施設の運営が国家の指導計画、財政で行われ国民は入院期間、治療や手術の種類にかかわらず、一切無料ということである。即ち、ソ連の保健制度の基本原則は

- (1) 完全国営である。
- (2) 国民経済と不可分の関係にあり、経済と共に進歩する。
- (3) 保健事業は国家的使命であり、国民全体の健康の責任は国家にある。一定の方法と順序を経て全国民に医療保健が行き届くようになっていく。(中央集権と地方分権とがある)
- (4) 誰でも何の差別もなく医療を受けられる。

ソ連の医療行政を掌握しているのは保健省で、ソ連共和国全体の貫した保健計画を立て、その監督を行う事が

第一の仕事であるが、他に治療法その他の基準作製、衛生関係の法律が遵法されているかどうかの監督、医療設備、医薬品の供給、諸外国との渉外関係等を行っている。

ソ連の人口は約二億三千七百万人である。そして全国家予算の七%(七五億ルーブル)が医療保健に使われる。これは国民一人当たり三〇ルーブルに相当する。その他、協同組合、労働組合、コルホーズ(集団農場)等から来る資金約十億ルーブルが保健医療に使われている。又社会保障費の一部もこれに使われている。従って現実には国民一人に対して五〇(六〇ルーブル(二万円)(二、四万円)が使われていることになる。

一九六七年、ソ連全土に於けるベット数は二〇四万であった。(但し軍病院のベットを除く)。即ち人口一人に対し一〇ベット、百人に一ベットの割合である。この割合は、アメリカの人口千人当り九・七ベットに比べやや上まわっている。そのうち神経系統の疾患が占めるベット数は、ソ連では十対二、アメリカでは九・七対四・七である。(アメリカの方が神経、精神系統の疾患が多い)。又医師の数は六十万二千人で世界一である。そして、そ

のうち七五%は女医である。これは人口四百人に對し一人の医師、人口一万人に對し二五人という事である。(註、日本では総医師数十萬八千八百人、うち九・三%が女医である。又人口十萬人に對して医師数一一〇・八、約九〇〇人に一人の割合である。……一九六四年厚生省統計)その他に、補助医及び看護婦が一七〇萬人(人口一萬人に對し七〇人の割合)、パラメジカルが四五〇萬人、厚ち全人口の二%、全労働人口の四%である。一九二七年の第一回五ヶ年計画以来、次々と短期計画及び五ヶ年計画を完遂し、医師の増員、施設の増加、増床等、国民全体の保健医療の向上につとめてきた。一九七〇年には、医師数を七〇万人に、ベット数を二七〇万にする計画である。

先づ診療面ではポリクリニカと称する外来患者の診療所があつて、病人の約八〇%の診療に當つてゐる。(註、例えばモスクワ市の一七区には夫々一五〜一六ヶ所あつて、一定地域をカバーしている。ソ連全体では約四萬のポリクリニカがある。……毎日新聞平野特派員による)。二〇%は病院に入院して治療を受ける。医療は全て無料の立前ではあるが、外来患者が処方箋を貰つて薬局で薬を求めるときは薬価代、或いは眼鏡の処方箋を持つて眼鏡を求めるときはメガネ代等は自己負担である。ソ連政府も初期に於ては一切無料とした時代があつたが、無料なるが故に必要な薬を欲しがつたり、必要外に貯めこんだり、薬局に薬がなくな

るといふ現象が起つたので、その後一部負担に切替えたさうである。然し現在では化学薬品の製造も順調で大量生産体制になつたので、再び一九八〇年を期して、全医療費、薬価等一切を無料にすべく努力している由である。

次に公衆衛生の面であるが、各地域に予防衛生機関がある。即ち、予防注射の実施、疾病の早期発見、成人教育としての衛生教育、老人病研究、環境衛生、例えば近年世界の多くの國々で問題になつてゐる公害問題に對しては、地区保健医の公衆的見地からの許可がない限り工場の建設も許されない……等を実施している。又家を建てる際、日当り、通風等の見地からの検査も公衆衛生に働く医師の任務のひとつで、時と場合によつては建築を中止させる権限すらあるとのことである。各地区には地区保健委員会が出来ていて、国民一人一人が、積極的にCommunity(地域)の保健に協力している。ソ連の公衆衛生に働く医師の八五%が女医であるという。

医科大学はソ連に一〇〇あつて学生数は二六万人とのことであり、云うまでもなく女子学生の方が多い。年間の卒業生は二萬七千人位である。医師になる為には中学を卒業した者が医大に入る資格を持つて(小、中学で一〇年間の教育を受ける)、基礎医学を二年間、臨床を四年間計六年、小学校から数えるとい六年間の教育ということになる。又補助医の教育は四年間で、辺地医として派遣されたりすることも

ある。看護婦は中学卒が二年間、中学の途中(七〜八年)から四年間勉強してもよい。看護婦学校は四〇〇あつて、約七万人が毎年卒業している。

医師のノルマに就いて記すと、診療所では内科医の場合、一時間に四人、五人、小児科は三〜四人の患者を診察するのが普通で、一日六時間労働である。毎日三時間外来、三時間往診が一般で、往診は患者一人に對し三〇分、四〇分あつてのが標準である。病院では医師一人当りのノルマは約二〇人で、多くとも三〇人までである。診療所の医師は二年間働くくと六ヶ月間病院に戻つてゆく等のローテーションによつて最新医学から落伍しないように配慮されている由。尚医師には修士、博士等の学位があり、これが給与に影響する。

医師の報酬であるが、卒業してすぐの医師では平均一〇〇ルーブル(一ルーブル約四〇〇円)、五年後に一五%増、二〇年後四〇%増といふ具合である。他に役職手当(例えば主任、科長等)がある。勿論他に地域待遇差もあつて、農村地域とか、気候条件の甚だしく悪い所に勤務するような場合は、住宅、燃料、水道、その他公共費用一切無料の上給与が二倍といふようなこともある。教授職にあるものは殆んどが学位を有し、例えば博士で教授の場合、平均五〇〇ルーブル、アカデミー会員になると、二〇〇ルーブル増となる。又職種により、伝染病、レントゲン等危険手当がある。看護婦は不足が

ちで、附添婦は人が嫌がる仕事である關係上、往々にして医師よりはるかに多い給与をとる場合が多い。

以上は、リシチン教授の講演と、私達の質問に對する答えから得た、ソ連の医療の現状であります。我が國に於けると同じような問題もあり興味がありました。何か精一杯背のびしてみせているような感じを受けたことも否定出来ません。医療の再教育の意味でのローテーション・システムには感心しました。然しこれも全医師が國家の公務員であるから出来ることで、どこにでも適応することは当然不可能でありましょう。

モスクワの町は広く清潔で、國民皆勞のせい人口が非常に多い國のような印象はなく、始めは寧ろ殺風景な印象さえ受けました。然し、夕食後宿舎ウクライナ・ホテルからミニバスでキエフに行き、かの有名な地下鉄駅見學と地下鉄に試乗してみました。が、労働の終わった時間にあつた為か、圧倒されるような労働者男女の群に、成程とソ連の一部分とソ連人の生活の一部分をかい間見る事ができました。単調な色調の服装に如何にも労働者らしいたくましさを見ながら人達、ホワイト、カラーらしい人々は見かけられない程皆同じように見えました。街を歩きかう女性達も地味で時たまミニスカートをみる位で、この國にはおもしろいがあるのだらうかと思つたりしました。又予想外の撰氏三十一度という暑さの中を白い布でぐるぐるに巻いて赤ん坊を抱いて無表情で行き過ぎた質素な服装の若い母親……あの骨と皮みたいな赤ん坊はこの暑さに大丈夫なんだらうかと心配でした。メトロの駅の前に立つていた花売りの小母さん達の穴のあいた靴下とポロ靴、酒焼けした労働者達の顔、何杯かのひっかけ酒でござげんになつて私達にからんできた若い労働者、それを大声で叱りつけた婦人職員、それらの人々とは對象的に博物館ともみまがう大理石とモザイク壁画や彫刻で飾られた豪華なメトロ駅。目が廻る程のスピードで地下五、六メートル(もっとも深かつたかも知れませんが)も急角度に下つて行くエスカレーターの巨大な構造、人、人、人の群。そして昏問静かな寺院を見物中に出逢つたピオニール(少年団)の人なつこく可愛いかつた少年少女達……

僅か二泊とまる一日のモスクワ滞在、それにインツリストの講義だけでソ連の生活を判断することはできませんが、あらゆる人に無料で、高度な医療サービスを与える"理想にはまだ程遠いものがあるように思いました。そして"知らしむべからず、よらしむべし"の政策は何時までも続くのだらうかと、ソ連人民の為に悲しく思いました。帰国後チェコの自由化問題の新聞記事を読み一層その感を深めた次第です。

自由で豊かな日本に住んでいる日本人のソ連崇拜者達に本當の共產主義國ソ連の生活や思想、行動の自由(むし

る束縛)が分っているのでしょうか。観念的にでなく、身体で分らなければ...私達は本当に幸せですと私は云いたい。(四三年八月十一日記す)

追記

ホノルルで開かれた第一一回汎太平洋東南アジア婦人会議に出席中、チエコにソ連が軍事介入をしたニュースを読み、瞬間ぞっとすると共に云い難い怒りと悲しみが走った。今から去る二十三年前、日ソ不可侵条約がなされていたにもかかわらず、昭和二十年八月九日未明、ハルピン郊外に飛来したソ連機が爆弾を投下、以来降伏の日まで続いた襲撃、(当時私はハルピンに在住、市立病院内科に勤務していました)そしてその後の混乱と恐怖、飢えと悪疫の流行(発疹チフス、痘瘡、腸チフス、再帰熱等々)、無政府と無秩序の中に過した惨めな生活の日々、相馬灯の絵のよに次々と浮んでくるのだった。そして次の瞬間に、二ヶ月程前モスクワで出会ったあの明るい無邪気で可愛らしかったピオニールの子供達が、ヤポンスキー(日本人)、トオキョー等と遠くから来た私達をびくくりした顔で眺め、自分達のしていた真赤なスカーフを我々の仲間にも呉れたり、交換したり、又引率していた先生は、日よけにしてくれと云って私に自分の帽子をぬいでかぶしてくれたりした、その時の思い出が、そしてそこぬけに明るく人の好きそうな子供達の顔が浮かんできました。

あの子供達は一体どんなソ連人になるのだろうか。彼等もまた自由世界を知らされることなく、又、知ることもなく、喜怒哀楽を顔に現わすことのできない型にはめこまれてしまうのだろうか。

(四三年九月一日記す)

へき地診療助成金支給

本会では長年へき地の診療にたづさわってこられた小川リツ氏(新潟県古志郡山古志村字種菅原)、松井寿美子氏(富山県西礪波福光町東)に対し奨励金を支給しました。このたびは礼状がまいりましたので掲載いたします。

先生には益々ご健勝のこととおよろこび申し上げます。

このたびは日本女医学会よりの助成金がありがたく拝受いたしました。私如き者にお目かけ頂きまして恐れ入ります。

何とか自分に言いよかせて辺地に住まう住民のために働こうと思っております。

金拾万円也は確かに受領致しました。

領収書同封致しました。

十二月二十八日

小川リツ

日本女医学会長 三神 美和先生

このたびは全く思いがけない多額の助成金を頂きまして有難く厚くお礼申し上げます。

先日申し上げました通り土地の人々に支えられまして唯何んとなく卅年を過して参りました。私、果してこの榮譽を受ける資格があるか否かと考えております。如何したものかと思案しております。

しかし委員会の皆様がお決め下さった事でございますので素直にお受けさせて頂きます。

会員の皆様によりしくお伝え下さいます。なお使途につきましましては皆と相談致しましたら、一部を県の善意銀行に預托し、一部でルーペンダンをおわけして頂き、私を励まし支えて下さった友人にお分けしてこの榮譽と喜びを頒ちたいと考えております。

この上共、体の許す限り働かせて頂きます。何卒ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

十二月廿八日

松井寿美子

三神会長先生

『ルーペンダン』のおかげで

高知県 楠目節子



至極便利、最近ではとうとう手ばなせくなりました。

私共の高知県では小出さんが十数年前から何か気のきいた眼鏡をという話を何時もしていられた。それが十一年程前、金でワクを取った度の弱いレンズをアクセサリーにして着用しているのをよく見せてもらいました。その後会う度に何十種も作って取り替えては、ぶらさげて会へ出席されるのを近頃の私は年令が上ながらあまり気にもしないで見ました。この五、六年やはり眼鏡をはずしたり、かけたらしなければならなくなり、「いよいよあなたもブラメガネを作って頂こうかしら」といつていましたら「クラス会用に研究したのだけれどあなたはモルモットがわりに一つさげてみてね」と新しい形のものをゆずってもらいました。その頃はすでにルーペンダンという名をつけて「クラス会のシンボルマーク、又は迷い子札みたいなもんだよ」と笑っていられた。私もそれ以来ずっと下げ続けておりますが使いなれるにしたがって

「あなたクラス会用のはやめたの?」「そう。あと手持が八〇〇ヶ位あるけどこれは一時ストップして万博用のを大いに宣伝するからよろしくね」と大変な熱の入れようです。私共も大

いに協力しようと約束しました。
 「丁度十一月はじめに私の町でライオンズクラブのチャリティセールがあるからその資金づくりに出品したいのに」といって無理に特許申請中の女医学会スタイルにふれない平凡な形の実用オンリーというのを三〇ヶ位あつからしてもらい、出品の少ないのを少しでも多く見せるために並べるだけといった気持で出してみましたらたちどころに売り切れでライオンズクラブの慈善寄附にも役立ちましたので会長である弟は大喜びでした。小出さん曰く
 「方々で、こういうものがあるという宣伝にもなるから女医学会のものが出はじめたら屹度かくれたP・Rになるでしょうね」
 とのこと、なるほど彼女はスケールの大きいことを考えているんだなと思つたことでした。その後いろいろな人が「なぜ小出さん自身で実新願を出さなかったのか」とか
 「あなたが会社をつくれればよかつたのに」
 とかいろいろ雑音が入るようですが、ガンコな彼女は
 「私達のクラス会費はよくだまつているしあんなものほんのオアソビのアイディアよ」
 とすましています。私も
 「そうね、日本中の年配の人がこれを下げはじめるとかと思うといろいろなアドバイスした私達もうれしいわね」
 などと聞いていました。しかし
 「あなたが高知県では皆さんにプレゼ

ントしたり、分譲して呉女医学会の人は私をはじめ殆んど持っているし、女医学会の割当てが高知でさばききれぬかしら」
 といった私の杞憂は何のその高知県女医学会がすごい力のいれかたで一人二ヶの割当ては五つ位にしようということになり
 「女医学会の製作品が届く迄に相当数の予約注文と前金が集まつている」とかききました。はじめは一寸高いかしらと思つていましたのに良い物はやはり見る人にはわかるのでしうか、それともモデルになつて私達がすてきか？ だつたのか評判がとてもよいようです。
 万博の頃にはもつともっと全国にゆきわたつて万博の救護所へ役務協力に出かけるつもりは私達は、万博の中でルーベンダンを下げた人を多くみかけることが出来るかしらと楽しみにして居ります。
 「ルーベンダン下げている人で救護所へ一寸した傷の手当をしてほしいといつて来る人には特に繻帯をよく巻いてあげたいわね」
 などと冗談をいい合ひながら一生懸命に宣伝にこれ相つとめております。
 そして女医学会高知県支部長窪先生の「ご要望で力のある人は一人十ヶ二十ヶと注文をうける申出があるようで猛烈に売上げがのびているようであらうことです」
 その上小出さんが
 「県下の会員の販布成績表を次の呉女

医学会にグラフにして発表するつもりよ」
 とフアイトぶりを發揮するのでP・Rに大いにつとめてあります。
 哲翁たまよ氏
 名誉町民に
 先生には御多忙の御身にかかわらず、何時も会のためご尽力いただきまして厚く感謝いたしております。
 この度は思いがけなく、祝電を頂きまして誠に有難う存じます。私は常に吉岡弥生先生のご薫陶を身にたいし出来る限り世のため、人のために尽したいものと努力して参りました。けれども何しろ田舎の開業医にて思う程のこと出来ませんのに今まで国、県、町、其他より種々賞状賞品を度々頂戴いたしました。然し此回は全く思いがけなく名誉町民の第一号に推挙されて感激一しおでござります。
 よわい八十になります健康に留意し残り少ない人生を有意義に過したいと存じますので、今後共尚一層のご指導をお願い致します。
 右簡単なが御礼を申し上げます。
 昭和四十三年十二月十五日
 長崎県高来郡口之津町一〇九一
 哲翁たまよ
 日本女医学会
 会長 三神 美和先生
 御前に

理事会議事報告
 と き—昭和四十三年十二月十四日
 (土)午後三時より
 ところ—至誠会本部会議室
 議題により大阪、奈良、愛知県各理事に特に出席を依頼多数列席
 庶務報告
 四十二年十一月二日
 厚生省へ書類
 社団法人申請書類(本会沿革、事業計画書)提出
 四十二年十一月十三日
 大阪万博委員会へ小俣副会長出席
 四十二年十一月二十一日
 前国際女医学会々長デルムンド女史歓迎会、於南国酒家(旅の思い出)出席上にて)
 四十二年十一月二十三日
 埼玉県支部会へ久保田理事出席
 四十二年十一月二十九日
 会誌三十六号発送
 四十二年十一月三十日
 長崎県哲翁たまよ氏(名誉町人)に祝電
 その他
 吉岡弥生賞規程一部改正案会誌三十六号に掲載
 小川リツ、松井寿美子両氏に対しへき地診療功績へ助成金拾万円つづ支給す。
 会計報告
 本部会計(十、十一月会計)
 万博寄附金、ルーベンダン収支報告

議事
 一、万博の件
 (イ)日本万国博役務提供の募金は寄付金、ルーベンダン、火災保険自転車保険、白衣すべて送金先は日本女医学会本部一本とし、万博に要する経費は日本女医学会より支出する。 決 議
 (ロ)団体交通傷害保険は本会理事会の協議事項でない。
 大阪府女医学会でこれを実施する場合、万博ときりはなして行ふよう申し入れる。
 (ハ)かねて日本看護協会より、万博役務提供に協力したい旨の連絡あり本会より会長が正式に申し入れることになった。
 (ニ)万博役務提供は全国会員の協力によりあくまでボランティアで行う。
 (ホ)参加に関する詳細については全会員にアンケートをとる。 一同賛成
 二、次期総会の件
 期日……
 昭和四十四年五月十日(土)
 五月十一日(日)
 会場……ローヤルホテル
 観光計画費用等の概要説明あり。
 三、国際連絡書記の件
 国際連絡書記の小野春生理事は国際女医学会副会長に就任、国際連絡書記後任は佐野アヤ子理事に決議された。

理事会議事署名責任者

中西、山崎理事

以上

昭和四十三年十二月二十一日(土)日本看護協会に対し、万博役務提供への協力を正式に三神会長より依頼す。

看護協会は理事会を開き協賛としてボランティアで参加することに決定した旨の返答あり。

万国博医療

サービスについて

十二月二十四日付日本万博協会々長石坂泰三氏より日本女医学会々長に左記の通り広報がありましたのでお知らせ致します。

広 第二〇八四号

昭和四十三年十二月二十四日

日本女医学会

会長 三神 美和殿

財団法人

日本万国博覧会協会

会長 石坂 泰三

時下ますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。日本万国博覧会の開催準備につきましては、かねがねご高配を賜わり、厚くお礼申し上げます。

さて、このたびは博覧会の会期中、場内救急医療サービス提供のお申し込みをいただき、まことに感謝にたえません。協会におきましては、三千万人を越える入場者のために、医療救急体制の万全を期しておりますが、とくに救急医療サービスを不可欠のサービスとして重要視しております。つきましては貴会からの申し込みは入場者に対する最上の賜り物として、ありがたく受けさせていただきます。なお、当協会の医療救急計画全体との関連等もありますので、詳細につきましては、後日貴会と協議の上で決定してまいりたいと存じます。よろしくご了解賜りませう、お願い申し上げます。

万博寄付申込者氏名

(昭和四十四年一月二十二日現在)

総計 百四十一万三千六百円

(敬称略順不同)

- 藤原 正 小野寺多美子 山田美穂 吉岡フキ 平野サダ 宮崎明子 芝原志津尾 大川美津子 村田マサエ 松井 露 林 富美恵 桜井 正 渡辺ウタ 山野隆子 久村チヨ 三宝静子 大久保松代 佐藤かね 伊藤レイ 山梨はな 大沢セイ 山下たか 谷 愛子 豊田ムツ子 堀口 茂 田村フサヨ 財満 鈴 小野志つ江 大和行子 綱瀬幸枝 古賀ミネ 岡本宇免 毛利石子 真中すじ 真中はるゑ 高木澄子

- 井街静代 中西 緑 林 敏子 布浦マツ子 佐分 妙 青木良枝 榎原ヨシ 増田志津子 廖 阿敏 都築節子 加藤志げ子 下部美津子 瀬戸富美代 林 三穂 中里玉子 西尾 薫 松尾ふく 森 チエ子 古沢サチ 内田とし 石原彩子 竹内冬子 山田三枝子 藤田武子 成川千代子 黒田 薫 大沢恵美 河井紀子 内脇富子 岡本系枝 瀬川こよ 芳野由以 沢 トシ子 小泉 和 若林静子 行武 民 中島和子 山梨貞支部 松永操子 仁羅山紀久 山下安子 後藤 利 伊藤 元 辻冬 青 小野昌子 佐々木道子 深川千鶴子 関根みよ 藤村ナミ 榛沢芳江 小林洋子 平瀬文子 山本 杉 福田 貞 阿部秀世 福永ひろ子 大内広子 白橋美笑 小俣喜久子 上田 葉 富坂春代 村田晴美 松本弘江 村野喜代 小山千代 高橋文子 嘉納雅子 井口登美子 小熊トシ子 今井通子 吉田聰子 大田八重子 吉成京子 阿部和枝 猪熊テイ 沢口彰子 青木典子 山内千枝 須貝千世子 山本和子 銀山アサ 梶見文子 白田はな 杉江寿枝 村松清枝 松井とし 村松忠子 野村きそ 谷口量子 藤田 栄 都崎多美恵 荒木真佐子 土屋満枝 松村鉄子 小林龍野 富樫キヨ 藤田とし子 南雲君代 鈴木幸子 哲翁たまよ 浦本ノリ 渡辺英子 山口三重 福島峰子 近藤 九

- 米林梅子 吉田登美子 小倉タエコ 田村晴子 柳沢浜子 増田須磨子 杉本智惟子 明石み代 田辺かすみ 白浜光子 小出つる子 佐藤松子 横井通子 花岡常子 角掛二三 中川甲子 富永 温 黛 喜久子 林 千鶴 北村玲子 近江久子 渡辺静子 富内恒子 渡辺武子 田那村敬子 佐々木静子 坂元八千代 志波知重子 中山 斐 赤川志賀 永尾きみ 坂本孝子 花田カツ 春山アイ 酒井久子 正田一寿子 岡田さと子 磯部貞子 野本照子 藤井傳子 牧野夫佐子 三神美和 鈴木菊江 青木ハツ子 川那部喜美子 岩坂芳香 木内徹子 川西ヒサ子 桐田美代 岡嶋弥生 市村桂子 中山英子 天崎アサ子 佐藤 勇 三宅 隆 村上尚子

◆昭和四十三年十一月二十五日、三菱銀行所沢支店から万博寄附金口座へ三千円ご送金下さいました方のご芳名が不明ですので本部にご一報願います。

☆☆

万博資金はすべて本部窓口へ!!! 寄付金、ルーペンダン、白衣、万博グラフは本部にご送金願います。 なお、火災保険、自動車保険は大正海上火災が代行します。

◆ルーペンダントは会員一名に対し二個づつの割当てで各県各区支部長殿宅へ昨年暮から本年はじめにお送りしてありますので何卒ご協力の程お願いいたします。

◆ルーペンダンの純益は万博施設参加

の資金となります。

◆本部にはまだ多量に用意してありますから、お申込み下さい。

◆定価 一個二、〇〇〇円。

◆廿個購入の場合一個サービスです。

編集後記

新年のおもむきのうせないうちにとあわただしく編集を終った。型の如くとはいえ三神会長の年頭所感の内容ゆたかに本年の抱負を語っておられる。

とくに国際行事である万博のテーマは紙面のあちこちに記されており、刻々に迫る時のきざみに合せた私共会員の歩調を感じさせる。

その志と完結の全からむことを私も編集室の一隅にて祈っている。

国際女医学会や国内各所でのわれわれ同志の活躍やら表賞の記事も年頭を飾るにふさわしく、さらに将来へのフアイトをかきたててくれる。

それにともなつて本会誌もますます実り豊かでありませうに!

(柴田記)

昭和四十四年二月一日印刷 昭和四十四年二月十日発行 編集人 森 千鶴 発行人 日本女医学会 発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19 印刷所 東京都港区白金五丁目一 興栄美術印刷株式会社

題字 吉岡 弥生